

平成15年度講習会 －消費・流通から見た県内水産業の課題－

中 村 勇 次

1. 目的

本県水産業は、景気の動向、輸入水産物の増加等で市場価格が低迷し、漁業者にとっては非常に厳しい状況である。その中で近年、「獲る漁業」から「売る漁業」への転換が叫ばれているがどのように「売る漁業」へ転換していけばいいのか、また、現在自分達の獲ってきた水産物が県内の消費者・流通業者からどのように評価されているのか等、現状を把握する必要がある。よって、スーパー等の流通関係者を講師に迎えることによって県内水産業について消費者・流通業者から見た課題を講演してもらうことにした。今回は、県内でも多数の大型店舗を構える「コープおきなわ」から講師を派遣して頂き講習会を開催した。

2. 場所及び日程

平成15年9月24日（水）

浦添宜野湾漁協漁民研修センター

3. 参加者

各漁協、各市町村、水産系統団体含め 約60名

4. 内容

平成15年度講習会は、水産試験場村越正慶場長の挨拶で開会し多数の出席者の中開催された。続いてコープおきなわ店舗事業本部商品部長上地清升氏による「消費・流通から見た県内水産業の課題」と題した講演を行った。講演では、まず始めに生活協同組合コープおきなわの概要説明や事業以外の主な活動（環境保全、反戦平和、募金活動等）の紹介を行った。

〈概要〉

(1) 供給高：225.7億円

(2) 組合員数：14.8万人

(3) 出資金：39.4億円

(2003年3月末現在)

(4) 代表者：理事長 新里恵二

(5) 事業内容：供給事業（共同購入事業、
店舗事業）
生活事業（サービス、旅行、
ハウジング）
共済事業

(6) 主要施設：7店舗、7支所・3事業所、
1物流センター、本部、サ
ービス旅行センターほか

(7) 職員数：総数1,600人（正規35
2人、定時1,248人）

続いて、商品の流通について①消費者が求めているもの②その中で、小売業としてやるべき事③生産者としてやるべき事、また自分達は何をすればいいのかを把握する必要がある。また、消費者は、①鮮度がよい②美味しい③適当な価格であることは前提条件（あたりまえ）として、④安心できる商品⑤環境に優しい商品をより求めている。近年、共働きによる有職主婦の増加などから、商品の加工度を上げて欲しいとの要望が強くなってきており、コープではそのような加工品の中でも骨を取り除いた「骨なしサバ」がヒット商品になっている。商品の料理法や食べ方がわからないという質問も多く、そのためレシピの作成や料理見本の作成等を行い消費者が利用しやすいように工夫している。コープおきなわでは「組合員さんのために」を判断基準にしており、組合員のほしい商品がほしい量お

店にあるのは当たり前で、それ以外の地域のニーズにも対応している。また、企業として生産性、効率を上げる為の取り組みも内部で行っており、これをマニュアル化している。この生産性・効率化を上げる取り組みは、そのまま「鮮度」を高く保つことに繋がり、商品の付加価値作りに繋がっている。基本であるが、水産物は漁獲した時から「劣化」が始まり鮮度が悪くなっていく。また、水産物は凍ると価格が下がるので、0℃を意識して管理すること。また、漁体が大きいと芯まで冷えるのに時間が掛かるため、しっかり冷やすことが重要である。水産物は、基本的に鮮度が良くなることはあり得ないので、管理によってどこまで水揚げ時の鮮度を維持できるかに掛かってくる。鮮度劣化の大きな原因は、「細菌の増殖」と「温度変化」の2つなので、時間をかけずに低温で処理することが重要である。また近年、輸送技術の発達で、低コストで鮮度の良い商品が入ってくるようになった（生サンマ等）。このようなことから県内の水産物取扱量は年々減少傾向にあり、県外水産物に頼る傾向にある。コープおきなわとしても、できるだけ県内産の水産物を使いたいが水揚げ量や価格が不安定なことから、どうしても県外水産物に頼らざるを得ない状況である。また、これからは高齢化社会に伴い健康志向がますます強くなり、肉よりも魚の需要が高くなる。今後、現状把握と様々な課題を整理して、優先順位を決めて取り組んでいくことが需要であるとのことであった。

続いて、水産試験場漁業室下條研究員から「沖縄県の海洋環境モニタリングについて」情報提供を行った。情報提供では、水産試験場が行っている環境モニタリングの役割について各種事例を交えながら紹介した。その中では、黒潮流路の振れ幅の話題や昨年の台風14号で海水温が下がらなかった理由として暖水渦の話題、昨年の異常潮位、三重県科学技術振興センターのホームページリンク集の紹介等を行った。その

後の質疑応答では、コープおきなわ上地氏、水産試験場漁業室下條氏ともにたくさんの質問があり、活発な意見交換が行われた。



①初めに水産試験場村越正慶場長から開会挨拶を行った。



②「消費・流通から見た県内水産業の課題」を講演して頂いたコープおきなわ店舗事業本部商品部長上地清升氏。



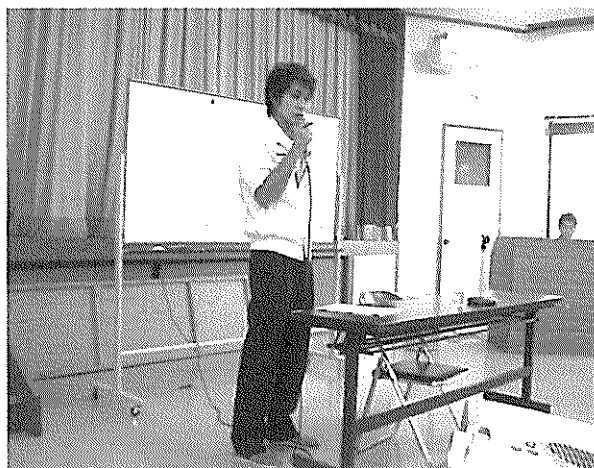
③講習会の様子。多数の方々の参加があった。



④「沖縄県の海洋環境モニタリングについて」
の情報提供を行った水産試験場漁業室下條武
研究員。



⑤会場からも多くの質問が寄せられた。



⑥講習会終了後、漁業無線協会から情報提供を
行った。